

科目区分	専門基礎分野	授業科目	チーム医療論
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次
目的: チームで協働するためのスキルを理解し、看護に必要な多職種との連携・協働の基礎的能力を養う。 目標: 1 他者と協働し、チームを効果的に機能させる視点及びスキルを理解できる。 2 関係職種間での連携及び協働により、地域社会の人々の保健・医療・福祉に貢献できる態度を養う。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 協働:他者とともに活動する	15	1 協働するための視点とスキル 1) チームとは 2) チームの構成要素 3) チームの機能 4) チームワーク 2 リーダーシップ 1) リーダーシップとは 2) リーダーシップの理論 3) リーダーと信頼 3 フォロワーシップ 4 チームの一員に求められる協働 1) 協働するためのコミュニケーション、マナー、姿勢 2) 承認するスキル 3) アサーション 4) 交渉とコンサルテーション 5 継続看護のための協働 1) 継続看護とは 2) 退院支援調整 3) 看護職間の協働 4) 多職種との協働	
2 多職種との連携・協働	9	1 施設内の専門職と考える多職種連携 1) 医師の職責と役割、多職種との連携 2) 薬剤師の職責と役割、多職種との連携 3) 栄養士の職責と役割、多職種との連携 4) 看護師の役割、多職種との連携 (院内での役割及び在宅へつなぐ役割を含む) 2 院内での多職種との連携・協働を考える※1 1) 目標達成のために必要な職種とそれぞれの役割 2) 目標設定と共有 3) 各職種へ看護師のはたらきかけ 4) 連携・協働で大切にしたいこと	
	6	3 病院から在宅へ 継続看護のための連携、協働 1) MSW の役割と機能、法的責任 2) 退院支援看護師の役割と機能、法的責任 4 病院から在宅へ多職種の役割と連携・協働を考える ※2 1) 目標達成のために必要な職種とそれぞれの役割 2) 目標設定と共有 3) 目標達成に向けた看護師のはたらきかけ 4) 連携・協働で大切にしたいこと	

評価方法	レポート、ロールプレイ、参加状況・態度等
テキスト	メディカ出版 看護の統合と実践① 看護管理 医学書院 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤
参考資料	医歯薬出版 チーム医療論
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。
備 考	※1※2は事例検討 単元2 多職種との連携・協働の実際には、事例について学生が連携・協働について検討し、発表、講師から助言を頂く。

科目区分	専門基礎分野	授業科目	公衆衛生学
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15 時間)	開講年次	3年次
目的: 総合的な健康づくりを推進する保健活動を理解する。 目標: 1 公衆衛生の概要を理解できる。 2 健康生活に関連する生活環境因子や対策を理解できる。 3 集団の健康状態を把握する健康指標や調査データの疫学的見方を理解できる。 4 衛生行政と保健活動の概要を理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 公衆衛生の基礎	5	1 公衆衛生の理念と看護の倫理 1) 公衆衛生とは 2) プライマリーヘルスケア 3) 情報公開と生命倫理 2 健康と環境 1) 環境とは 2) 生活環境の保全 3 公衆衛生の技術 1) 疫学と健康指標 4 医療の動向と医療保障	
2 対象別健康管理の実践	6	1 地域保健 1) 地域と健康 2) 地域活動の場 (1) 市町村保健センター (2) 保健所 3) 生涯にわたる健康づくり対策 4) 地域保健対策 2 成人保険・老人保健 1) 成人と高齢者の健康の意義 2) 生活機能と保健活動 3 感染症対策 1) 感染症の基本知識 2) 今日の感染症とその予防対策 3) 結核 4) 性感染症と HIV 感染	
3 場面別健康管理の実践	3	1 産業保健 1) 労働者の健康問題 (1) 職業性疾病および業務上疾病 (2) 健康障害要因としての労働・労働環境 2) 労働者の健康を守る法律 3) 職場における労働者の健康を支援する環境づくりの実践 4) 職業に関連する健康障害と予防および対策の実践 2 災害保険 3 健康危機管理	
	1	試験	

評価方法	筆記試験
テキスト	医学書院 健康支援と社会保障制度〔2〕 公衆衛生 メディックメディア 公衆衛生がみえる
参考資料	
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。
備 考	